

令和6年度第2回平塚市市民活動推進委員会 議事録

日 時 令和6年7月12日（金）午後2時00分から午後4時00分まで
場 所 ひらつか市民活動センター 会議室A・B
出席者 松田委員、和久井委員、西畑委員、市川委員、能勢委員、辻委員、中野委員、事務局
傍聴者 なし

1 第6回平塚市みんなのまちづくり事例募集について

第6回平塚市みんなのまちづくり事例募集について事務局が説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

特になし。

2 令和7年度提案型協働事業の状況について

令和7年度提案型協働事業の状況について事務局が説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委 員〉：多頭飼育崩壊の事業について、障がい福祉課などの連携が必要かと考えるがどのように連携していくのか。

〈事務局〉：実際に啓発の協力をどこの課に依頼するのか団体も決めていない。本提案の段階にはしっかり決めていくように団体も考えている。介護福祉課・高齢福祉課・障がい福祉課などが想定される。

〈委 員〉：飼い主に万が一のことがあった場合に、ペットを保護する制度があると市民としては安心すると思う。

〈委 員〉：事業担当課は1つに絞る必要はあるのか。

〈事務局〉：1事業1担当課という決まりがあるわけではない。環境保全課にも情報共有し、どのように他課と連携していかれるのか考えを聞いてみる。

〈委 員〉：具体的にどこと連携するのが良いかわからないが、制度を作っていく段階から、庁内連携があると良い。

〈委 員〉：事業が1年で終わってしまう理由がわからない。

〈事務局〉：協働事業として1年で終わるが、環境保全課では必要な事業と考えているので、委託料への予算要求していく方向を検討している。ただし、本来の所管が神奈川県であるため、費用などを含めて市が実施する必要があるのか、検討が必要と考えている。

〈委 員〉：県への働きかけが必要と言っていたが、県と団体はどのような役割分担になっているのか。

〈事務局〉：県がペットなどの動物を保護しているが、それが、間に合っていない状況で、急

を要する案件では団体が対応して連携している。

〈委員〉：ボランティア登録している団体は他にもあるのか。

〈事務局〉：事務局ではどんな団体があるのか把握していない。

〈委員〉：平塚の一団体だけが対応するのは大変だと思うので、心配に感じる。

〈委員〉：平塚が所在地の団体ではあるが、他の地域でも譲渡会などの活動している団体があるので、評価できる。ただ、団体もいろいろな考え方を持って活動しているので、ペット業者などと連携していくのが難しいかと思う。

〈委員〉：鎌倉でも類似の動物愛護団体はあるが、なかなか団体同士が連携していくのは難しい現状がある。

〈委員〉：飼育崩壊の問題も、福祉に関連する問題との話が協働事業審査会でもあった。初めから福祉部門とやるのは難しいので、今回は環境保全課で前向きに考えているので、担当課として進めてもらえればいいと考えている。

〈委員〉：心配な点は、課題解決活動の飼い主へのアプローチするのは団体では難しいのではないかと思う。ある程度線引きを引く必要があると考える。

〈事務局〉：飼育崩壊してしまう飼い主自身に生活面で問題がある傾向があるようで、行政の福祉部署へつなげる必要があると思う。

〈委員〉：学校の教育時間が限られる中で、あいあいリトミックと担当課がどのように学校側へ協力してもらうようにするのか、その見通しがあるのか。

〈委員〉：事務局側からも、カリキュラムや指導要領がある中で、現場でのニーズがあるのか団体の方に調べてもらうように伝えている。いくつかの小学校で実施意向を示している教員もいるとのことで、どこの学校で、どういう児童を対象としていくのか再検討してもらっている。

〈委員〉：昨年度は中止となったが、今年度復活した理由は何か。

〈事務局〉：昨年度は生徒向けの活動としたが、時間等の制約があったので中止となった。今年度は先生たちにリトミックの良さを知ってもらうことを目的に再度提案してもらった。

〈委員〉：1、2年ではなく、継続して活動が続けてもらい、リトミックの効果を出してもらい、見通しをもって、リトミックの効果根拠をもって、学校の先生たちの協力が得られるようにしてもらえるようにしていただきたい。

〈委員〉：乱暴な提案になるが、音楽の時間を一部リトミックに変えて、リトミックを定着して行かないと、活動しても、もったいないように感じる。もう1つ、インクルーシブ教育と書かれているが、どのように進めるのか示してほしい。

〈委員〉：リトミックをインクルーシブ教育として謳うのであれば、抽象的であると、何となく終わってしまう。1つ1つ具体的なものの提示をして行ってもらいたい。音楽の時間でつたえるのか、自立活動の時間でつたえるのか、ある程度長い見通しを立ててやるといった方が、聞いている側はわかりやすい。

〈委員〉：団体と学校を担当課が仲介するような形なので、もう一歩何かないか考えていただきたい。

〈事務局〉：動画を作成する専門知識がないので、本当に学校の教員に効果的にアプローチで

きるのか不安に感じる。

〈委員〉：動画を見て、先生たちが自分たちでもできて、やってみたいと思わせるものが作れるのか。

〈委員〉：平塚にあいいりトミックという団体があるので、動画を見るのではなく、団体が直接教員を教えてあげたほうが良いのではないかな。

〈事務局〉：団体は、本来直接教員に教えたいとの意向があったが、実際にやるには、時間や場所など教員の制約があるので、動画をつくれなにかとの担当課部署からの提案があったので、作る方向になった。

〈委員〉：動画の作成には、プロフェッショナルな方に依頼した方が良いのではないかな。

3 提案型協働事業に関する今後の方向性について

提案型協働事業に関する今後の方向性について、資料5をもとに事務局が説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員〉：提案型協働事業のスケジュールについて、協働事業の募集開始時に説明会を行っているのか。

〈事務局〉：市民と職員が一同会する協働研修を行っている時に、協働事業の説明を行っている。

〈委員〉：鎌倉では市民向けの事業説明会を行っている。その時に、協働事業を経験した団体に経験談を話してもらった。ざっくばらんに話してもらったので、良かったし、提案が数件あった。

〈委員〉：行政提案型が減っているのをどうするのか考えたい。協働事業の位置づけが軽くなってしまっているのか。

〈事務局〉：管理職よりは現場担当者が、仕事が多く、協働事業がプラスアルファの仕事として捉えられている。協働事業を取り入れたい事業の多くは福祉部門であることが多い。しかしながら、仕事量が多い部門となってしまう。

〈委員〉：自分の仕事の中で、職員が楽しく協働事業に取り組んでもらいたい。せっかくある社会資源であるから、上手に市民が使えるように行政側もアプローチしてもらいたい。

〈委員〉：市民提案型協働事業で担当課が見つからない場合には、協働推進課が1年目を担当課となり、実施してみればどうか。新たな形でチャレンジできる制度にしたい。協働という言葉をもう一度考え直して、事業を構築しなおしてもらいたい。

〈委員〉：審査員の立場からすると、行政から出された課題に対して、スキル等がきちんとしている団体が受けている事業については、審査員として採択したいと思える。しかし、市民提案型は、一方的に市民活動団体から提案されて、その内容が行政側で事業の価値が理解されないまま判断されてしまうことが危ういと感じる。むしろ市民活動団体への補助金として行う方が良いと思う。

また、現時点での事業提案書はかなりボリュームがある内容となっているが、修

正があるため、もっと簡易的な書き方で良いのではないか。

〈委 員〉：職員への意識調査と書いてあるが、実施するのか。

〈事務局〉：現時点で詳細は決まっていないが、やる事で協働事業につながるアイデアの洗い出しにつながると思い、意識調査について検討していきたい。

〈委 員〉：鎌倉でも市の業務での困りごとを調査した。あまり出てこなかったが、福祉部門から出てきた。それをHPで公開したら、市民活動団体からの提案があった。このことから、完全にマッチはしないが、つながることがわかった。

〈委 員〉：市民の困りごとやまちづくりのアイデアを市民に問うのも良いのでは。

〈委 員〉：みどり公園・水辺課とやっていた団体が、高齢化によって団体活動がなくなってしまった。しかし、行政として必要だけど、なくなってしまった活動団体を新たに作り出すような仕組みを作るのも良いのではないか。

4 その他

特になし

閉会